

社 会

1 得点分布及び小問ごとの正答率

〈表1〉得点分布

得点	人数 650人	
	人数	%
100	0	0.0
90～99	11	1.7
80～89	66	10.2
70～79	114	17.5
60～69	142	21.8
50～59	135	20.8
40～49	87	13.4
30～39	54	8.3
20～29	32	4.9
10～19	8	1.2
1～9	1	0.2
0	0	0.0

*合格者の中から、無作為に抽出した650人(12.7%)の結果である。

*%の数値は、小数点第2位を四捨五入したものである。

〈表2〉小問別正答率(%)

大問	小問	正答率	大問	小問	正答率		
1	(1)	91.2	3	(1)	74.9		
	(2)	①		37.8	(2)	63.8	
		②		93.9	(3)	84.2	
	(3)	37.1		(4)	36.3		
	(4)	47.8		(5)	24.0		
	(5)	35.0		2	(1)	76.6	
	2	(1)			83.5	(2)	79.4
		(2)			69.7	(3)	48.0
		(3)			76.5	(4)	53.6
		(4)			77.7	(5)	45.9
(5)		45.0	小計	54.9			
小計		61.8	4	(1)	86.9		
2	(1)	97.7		(2)	36.8		
	(2)	55.8		(3)	84.3		
	(3)	63.2		(4)	62.8		
	(5)	ア		13.7	小計	68.9	
		イ	60.2				
2	(1)	93.7					
	(2)	55.6					
	(3)	71.1					
	(4)	31.2					
	(5)	53.5					
小計		56.8					

〈表3〉大問別の正答率の経年比較

大問	分野	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
1	地理的分野	65.1	74.3	71.5	54.9	61.8
2	歴史的分野	53.3	61.4	67.3	61.6	56.8
3	公民的分野	65.0	66.3	59.4	52.3	54.9
4	3分野融合	43.9	62.7	72.9	31.0	68.9

2 分析結果の概要

合格者の社会の平均点は、56.6点で、昨年度と比べ上昇した（昨年度51.3点）。

〈表1〉について、70点以上の人数は全体の29.4%で、昨年度に比べ増加した（昨年度17.1%）。50点未満の人数は28.0%で昨年度に比べ減少した（昨年度39.3%）。平均点を中心として、ほぼ正規分布となっている。

〈表2〉について、正答率80%以上の問題数は8問で、地図や年表を用いて基本的な知識・理解を問う問題の正答率が高かった（1の1(1)、4の(3)）。正答率40%未満の問題数は8問で、図表や年表等の諸資料を活用する技能に加え（1の1(2)①、4の(2)）、考察したことを表現する力をみる問題の正答率が低かった（1の1(5)、2の1(5)ア、2(4)、3の1(4)、(5)）。

〈表3〉について、分野別の正答率は3分野融合問題が高く、公民的分野が低かった。昨年度との比較では、地理的分野、公民的分野と3分野融合問題で正答率が高く、特に融合問題はかなり高かった。

3 標準解答及び大問ごとのねらい

1 〈標準解答〉

1	(1)	ユーラシア 大陸	(2)	①	スペイン	②	植民地	(3)	ア
	(4)	(例) 価格の安定しない商品作物や鉱産資源が、輸出の大半をしめているから。							
	(5)	(例) 一人あたりの国民総所得に差があり、地域内で経済格差が生じている							
2	(1)	イ	(2)	エ	(3)	ウ	(4)	ウ	
	(5)	(例) 異なる文化をたがいに尊重し合い、ともに協力してくらしていくという心がけが必要である。							

〈ねらい〉

「日本と面積がほぼ同じ大きさの国」というテーマで作成した、世界の国々の地域的な特色や地域構成に関する地図や資料、また、「日本と世界の食文化」というテーマで作成した地域的な特色や日本の地域構成に関する資料を題材にした。それらを基に、世界や日本の様々な地域に関する地理的認識について、基礎的・基本的な知識や理解をみるとともに、諸資料を活用して、社会的事象を多面的・多角的にとらえるための思考力や判断力、表現力をみるようにした。

2 〈標準解答〉

1	(1)	エ	(2)	ア	(3)	ウ
	(4)	(例) 牛を使って田や畑を耕したり、裏作に麦をつくる二毛作が広まったりするなど、農業技術が向上したから。				
	(5)	ア	(例) 攘夷が無理である		イ	(例) 欧米列強に対抗する
2	(1)	ザビエル	(2)	エ	(3)	ア
	(4)	(例) 日本の政府は、ビゴの出身国であるフランスに対して、領事裁判権を認めていたから。				
	(5)	(例) 日本では、小学校の就学率が高まり、多くの国民が文字を読むことができるようになったから。				

〈ねらい〉

「宮崎県の祭りと歴史」というテーマで作成した資料、また、「歴史に登場する本や新聞などの出版物」というテーマで作成した資料を題材にした。それらを基に、各時代の特色を踏まえながら、我が国の歴史の大きな流れについて、基礎的・基本的な知識や理解をみるとともに諸資料を活用して、社会的事象を多面的・多角的にとらえるための思考力や判断力、表現力をみるようにした。

3 〈標準解答〉

1	(1)	三権分立（権力分立）		(2)	イ		(3)	ウ	
	(4)	(例) 歳入にしめる公債（国債）の発行額が増えると、国債残高が増え、国民一人あたりの負担が重くなるから。							
	(5)	(例) 弁護士などが増えることで法律相談がしやすくなったり、全国どこにいても司法に関するサービスを受けやすくなったりと、人々が裁判を利用しやすくなる社会。							
2	(1)	ウ	(2)	エ	(3)	男女共同参画社会		(4)	ア
	(5)	(例) 日本は、唯一の被爆国であることから、積極的に核兵器の廃絶を求め、世界の平和をうたえていくべきである。							

〈ねらい〉

「日本の政治のしくみ」をテーマに調べた資料、また、「私たちが育った15年」というテーマで、現代の経済の仕組み、現代社会の課題について作成した資料を題材にした。それらを基に、我が国の民主政治の仕組みや経済の仕組み、国際社会における諸課題について、基礎的・基本的な知識や理解をみるとともに、諸資料を活用して、社会的事象を多面的・多角的にとらえるための思考力や判断力、表現力をみるようにした。

4 〈標準解答〉

(1)	親潮（千島海流）		(2)	イ		(3)	イ	
(4)	(例1) 運動公園の面積の広さを生かし、多くのスポーツチームのキャンプを誘致 (例2) ブランド力のある宮崎牛の知名度を生かし、宮崎グルメ食べ歩きツアーを企画 (例3) 宮崎に数多く残る神話を生かし、神話や歴史に関する観光案内地図の情報を発信							

〈ねらい〉

宮崎県民歌に関する資料を基に、社会科3分野を融合する視点から日本や宮崎県について調べた資料を題材にした。それらを基に、基礎的・基本的な知識や理解をみるとともに、諸資料を活用して、社会的事象を多面的・多角的にとらえるための思考力や判断力、表現力をみるようにした。

4 小問ごとの内容及びねらい

大問	小問	内容	出題のねらい	出題形式			評価の観点			正答率	
				記号選択	用語記述	記述	知識理解	思考判断表現	資料活用技能		
1	1	地理的分野	(1) 六大陸の位置と名称について理解している。		○		●		●	91.2	
			(2) スペインの位置とヨーロッパの植民地支配について理解している。		○		●		●	①37.8 ②93.9	
			(3) 地図から日本の対蹠点を求め、地球の大まかなとらえ方をつかむことができる。	○			●		●	37.1	
			(4) アフリカの輸出品構成と、カカオ豆と原油の国際価格の推移との関連について考察し、説明することができる。			○		●	●	47.8	
			(5) 3つの経済圏の共通の課題について、各国1人当たりの国民総所得の資料を基に考察し、説明することができる。			○		●	●	35.0	
	2		(1) 近畿・中国地方の地形について理解している。	○			●			83.5	
			(2) 資料から4つの県の特徴を読み取り、その中から千葉県を判断することができる。	○			●	●		69.7	
			(3) 資料から瀬戸内工業地域の特徴を読み取ることができる。	○			●		●	76.5	
			(4) 地形図を基に、地図記号や標高を読み取ることができる。	○			●		●	77.7	
			(5) グローバル化が進む中で、資料を基にどのようなことを心がける態度が必要か、論述することができる。			○		●	●	45.0	
2	1	歴史的分野	(1) 古墳時代を理解している。	○			●			97.7	
			(2) 奈良時代における仏教について理解している。	○			●			55.8	
			(3) 古代から中世にかけての政治の権力の移り変わりについて理解している。	○			●			63.2	
			(4) 中世において農業技術が発達した背景について、資料を基に考察し、説明することができる。			○		●	●	55.8	
			(5) 薩摩藩と長州藩が倒幕をめざした理由について、資料を基に考察し、説明することができる。			○		●	●	ア13.7 イ60.2	
	2		(1) ザビエルについて理解している。		○			●			93.7
			(2) 上方から江戸へ文化の中心の変化について、資料を基に考察し、判断することができる。	○			●	●		55.6	
			(3) イギリスの産業革命が、日本やアジアに影響を及ぼしたことを説明する資料を、写真から判断することができる。	○			●		●	71.1	
			(4) 日本が開国後、治外法権を認めていたことについて、資料を基に考察し、説明することができる。			○		●	●	31.2	
			(5) 大正時代、活字文化が広まった背景について、資料を基に考察し、説明することができる。			○		●	●	53.5	
3	1	公民的分野	(1) 三権分立について理解している。		○		●			74.9	
			(2) 衆議院の優越について理解している。	○			●			63.8	
			(3) 議院内閣制について理解している。	○			●			84.2	
			(4) 公債の発行について、資料を基に考察し、説明することができる。			○		●	●	36.3	
			(5) 司法制度改革について、具体的事例を通して考察し、説明することができる。			○		●	●	24.0	
	2		(1) 日本銀行の役割について理解している。	○			●			76.6	
			(2) 規制緩和について具体的事例を通して理解している。	○			●		●	79.4	
			(3) 男女共同参画社会基本法について具体的事例を通して理解している。		○		●		●	48.0	
			(4) 円高・円安について、具体的事例を基に考察し、判断することができる。	○				●	●	53.6	
			(5) 核兵器の廃絶に向けて日本が国際社会にうたえていくべきことを、資料を基に考察し、論述することができる。			○		●	●	45.9	
4	融合	(1) 黒潮について理解している。		○		●			86.9		
		(2) 日本の経済成長率の増減と戦後の主な出来事との関連について、資料を基に考察し、判断することができる。	○			●		●	36.8		
		(3) 持続可能な社会を形成するための取組について、資料を基に考察し、判断することができる。	○				●	●	84.3		
		(4) 宮崎の観光産業のより一層の活性化について、資料を基に考察し、論述することができる。			○		●	●	62.8		